

能代市合流式下水道緊急改善事業 事業評価シート

評価実施年月：平成 25 年 1 月

1. 対象事業	能代市合流式下水道緊急改善事業																															
2. 実施主体名称	秋田県能代市																															
3. 計画期間	平成 17 年度～平成 21 年度																															
4. 対象事業の進捗状況	<p>下記の内容について、当初計画より約 6 月遅れたが完了（平成 22 年 10 月 12 日）した。また、中川原中継ポンプ場増改築工事の関係で対象事業の整備効果が発現したのは、平成 23 年 11 月 1 日からである。</p> <p>①汚濁負荷量の削減…「排出する汚濁負荷量を分流式下水道と同程度以下とする」</p> <p>1) 既存の合流管を雨水貯留施設（貯留管仕様）への改造する</p> <p>2) 既存の合流管へ接続している分流汚水幹線を切替え、新たな分流汚水幹線を新設する</p> <p>②公衆衛生上の安全確保…「全ての雨水吐口で未処理下水の放流回数を少なくとも半減させる」</p> <p>1) No.1 及び No.3 雨水吐口を廃止し、No.2 雨水吐口 1 箇所へ統合する</p> <p>2) 雨水貯留施設へ、一時的に雨水を貯留する</p> <p>3) No.2 雨水吐口内の越流堰の嵩上げを実施する</p> <p>③きょう雑物の削減…「全ての雨水吐口で夾雑物の流出を極力防止する」</p> <p>1) No.2 雨水吐口へきょう雑物除去施設（吐口スクリーン）を設置する</p>																															
5. 目標の達成状況と達成の見通し	<p>改善目標</p> <table border="1"> <thead> <tr> <th>改善項目</th> <th>改善目標</th> </tr> </thead> <tbody> <tr> <td>①汚濁負荷量の削減</td> <td>当該合流式下水道を分流式下水道と置き換えた場合に排出する汚濁負荷量と同程度（いわゆる分流式下水道並み）とする</td> </tr> <tr> <td>②公衆衛生上の安全確保</td> <td>全ての吐口において、未処理放流回数を半減させる</td> </tr> <tr> <td>③きょう雑物の削減</td> <td>全ての吐口において、きょう雑物の流出を極力防止する</td> </tr> </tbody> </table> <p>目標に対する達成状況</p> <table border="1"> <thead> <tr> <th>改善項目</th> <th>評価指標</th> <th>改善前(H16)</th> <th>改善目標</th> <th>改善後</th> </tr> </thead> <tbody> <tr> <td>①汚濁負荷量の削減</td> <td>年間放流負荷量</td> <td>62.1 t/年</td> <td>58.5 t/年以下</td> <td>26.2 t/年以下</td> </tr> <tr> <td>②公衆衛生上の安全確保</td> <td>未処理下水の放流回数</td> <td>79 回</td> <td>12 回以下</td> <td>5 回</td> </tr> <tr> <td>③きょう雑物の削減</td> <td>スクリーン設置割合</td> <td>0%</td> <td>100%</td> <td>100%</td> </tr> </tbody> </table> <p>※改善計画をもとに事業を実施し、改善目標を達成している。</p>				改善項目	改善目標	①汚濁負荷量の削減	当該合流式下水道を分流式下水道と置き換えた場合に排出する汚濁負荷量と同程度（いわゆる分流式下水道並み）とする	②公衆衛生上の安全確保	全ての吐口において、未処理放流回数を半減させる	③きょう雑物の削減	全ての吐口において、きょう雑物の流出を極力防止する	改善項目	評価指標	改善前(H16)	改善目標	改善後	①汚濁負荷量の削減	年間放流負荷量	62.1 t/年	58.5 t/年以下	26.2 t/年以下	②公衆衛生上の安全確保	未処理下水の放流回数	79 回	12 回以下	5 回	③きょう雑物の削減	スクリーン設置割合	0%	100%	100%
改善項目	改善目標																															
①汚濁負荷量の削減	当該合流式下水道を分流式下水道と置き換えた場合に排出する汚濁負荷量と同程度（いわゆる分流式下水道並み）とする																															
②公衆衛生上の安全確保	全ての吐口において、未処理放流回数を半減させる																															
③きょう雑物の削減	全ての吐口において、きょう雑物の流出を極力防止する																															
改善項目	評価指標	改善前(H16)	改善目標	改善後																												
①汚濁負荷量の削減	年間放流負荷量	62.1 t/年	58.5 t/年以下	26.2 t/年以下																												
②公衆衛生上の安全確保	未処理下水の放流回数	79 回	12 回以下	5 回																												
③きょう雑物の削減	スクリーン設置割合	0%	100%	100%																												
6. 対象事業の整備効果の発現状況等	<p>①汚濁負荷量の削減</p> <p>目標値を上回る負荷量を削減</p> <p>【削減率約 85.7%（流入 410.3→放流 58.5 t/年）⇒約 92.8%（流入 363.1→放流 26.2 t/年）】</p> <p>※削減率の算出式（流入負荷量－放流負荷量）÷流入負荷量</p> <p>②公衆衛生上の安全確保</p> <p>目標を上回る放流回数を削減【13 回（25→12 回）⇒20 回（25→5 回）】</p> <p>③きょう雑物の削減</p> <p>スクリーンの設置によりきょう雑物の流出を極力防止している</p>																															
7. 事業の効率化に関する取り組み状況	<ul style="list-style-type: none"> 雨水貯留施設と分流化を比較し、経済的に有利な雨水貯留施設を採用した。 新たな分流汚水幹線の新設に際しては、通常の推進工法と比較し、経済的に有利な長距離曲線推進工法を採用した。 																															
8. 今後の方針	<p>現状で改善目標は達成できており、平成 26 年度までの改善計画で実施予定の「中川原中継ポンプ場分流汚水ポンプの増強」も平成 23 年度で完成した。今後は、長期計画である能代終末処理場雨水沈殿池の建設（平成 24、25 年度予定）を進め、能代市合流式下水道改善を完了させる。</p>																															

※この事業評価シートは、平成 23 年 11 月から平成 24 年 10 月までの 1 年間のデータをもとに作成した。